

特集

培地への加温で県育成イチゴ「あまクイーン[®]」の厳寒期の草勢を維持

「あまクイーン」は、良食味で極早生性のイチゴであるが、冬季の草勢が低下しやすい。これに対し、「兵庫方式高設栽培装置への温床線挿入による培地加温法」を活用し、ベッド単位で部分的に加温することで草勢が維持でき、「章姫」などのより低温に強い品種とのハウス内での同時作付けが可能である。

内容

「あまクイーン」は、低温期に草勢が弱りやすく、チップバーン^{*}などの障害発生や収量低下など、他の品種との同時栽培に困難が伴う。そこで、より低温に強い品種との同時栽培を目指して、厳寒期の「あまクイーン」で、培地加温による草勢維持効果を検討した。

イチゴ「あまクイーン」を、2020年9月16日に兵庫方式高設栽培装置上に定植。ハウス内気温設定は「章姫」で標準的である暖房開始温度8℃、日中換気温度28℃とした。培地加温は、コルゲート管に温床線を挿入し、13℃以下になると稼働する設定で（図1）、12月19日より開始。培地温は、培地加温区が日平均16℃、培地無加温区が14℃であった。

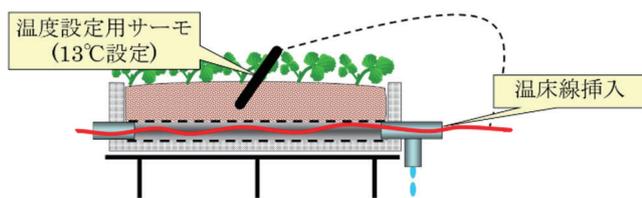


図1 培地加温ベッドのイメージ

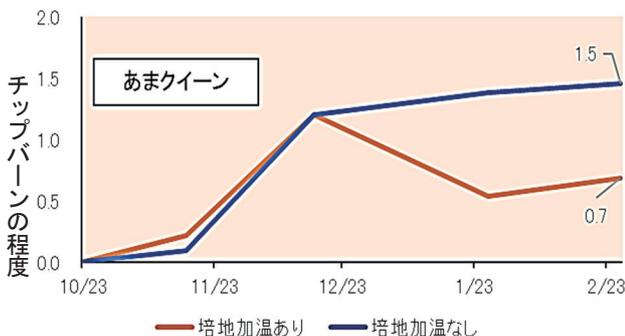


図2 培地加温の有無とチップバーンの程度
発生なし：0～発生甚：5として評価した平均値

培地加温開始後、培地加温区でチップバーンの発生程度が小さく、草勢維持効果が見られた（図2）。培地加温区の売り上げは10a当たり83万円（500kg増収（図3）、500円/300gパックとして計算）増加し、電気代9.9万円、使用開始時に別途必要な資材費（17万円）を差し引いても増収と試算された。

以上より、培地加温は「あまクイーン」の草勢維持、増収に効果があり、「章姫」等、より低温に強い品種にあわせた温度でのハウス暖房に、「あまクイーン」ベッドへ培地加温を併用することが効果的であることが分かった。

普及上の注意事項

設置に当たっては、使用電力量が大きいいため、契約容量や電源容量など、事前に十分な検討が必要である。既設ベッドに追設する場合は温床線が設置可能か事前に確認する。

山本 晃一（北部 農業・加工流通部）

（問い合わせ先 電話：079-674-1230）

※チップバーン：葉焼け、ガク焼けの一種。草勢低下等により発生。

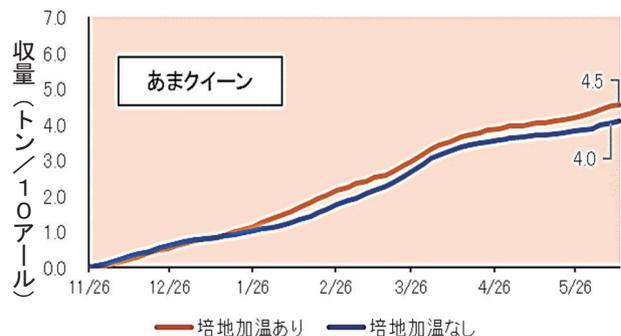


図3 培地加温の有無と累積収量